

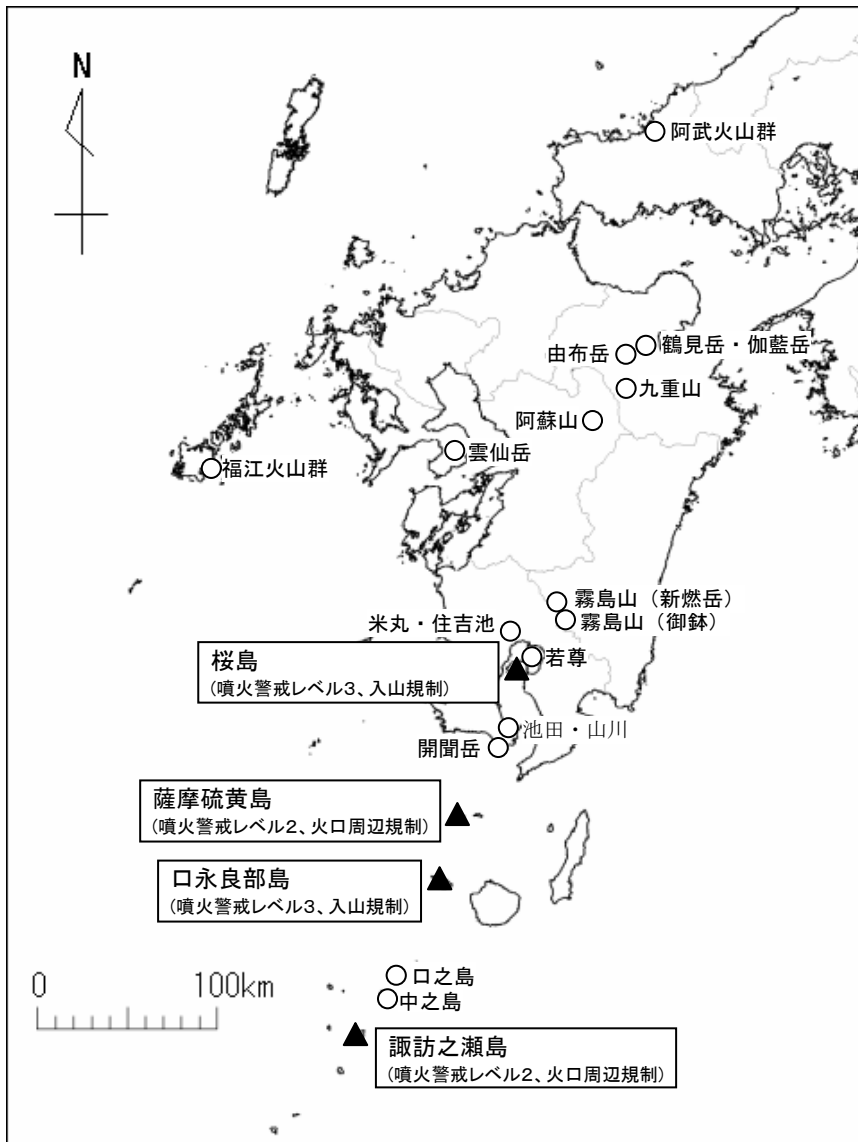
管内月間火山概況及び
雲仙岳の火山活動解説資料
(平成 21 年 2 月)

管内月間火山概況（平成 21 年 2 月）

福岡管区気象台
火山監視・情報センター

噴火警報及び噴火予報の発表状況（3月6日現在）

火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）	：口永良部島、桜島
火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）	：薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
噴火予報（噴火警戒レベル 1、平常）	：九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山（新燃岳）、霧島山（御鉢）
噴火予報（平常）	：阿武火山群、鶴見岳・伽藍岳、由布岳、 福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、 開聞岳、口之島、中之島



凡例

▲：噴火警報発表中の火山 ○：その他の火山

※噴火警戒レベルは、地域防災計画等でその活用が定められている火山に導入されています。

この管内月間火山概況は気象庁ホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)、福岡管区気象台ホームページ(<http://www.fukuoka-jma.go.jp/>)でも閲覧することができます。次回の管内月間火山概況(平成 21 年 3 月分)は平成 21 年 4 月 7 日に発表予定です。

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学、九州大学、鹿児島大学、独立行政法人防災科学技術研究所、大分県、阿蘇火山博物館のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の「数値地図 50mメッシュ(標高)」を使用しています(承認番号:平 20 業使、第 385 号)。

各火山の活動状況及び予報警報事項（3月6日現在）

桜島では、2月2日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。また、19日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）からレベル2（火口周辺規制）に引き下げました。

3月1日から2日にかけて、爆発的噴火が3回発生し、2日06時53分には弾道を描いて飛散する大きな噴石が昭和火口より4合目（火口から800mから1300m）まで達しました。また、大隅河川国道事務所が有村に設置している傾斜計の観測では、山体の膨張と考えられる変化が認められました。

このため、桜島の噴火活動は活発化する傾向にあると判断し、3月2日10時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

九重山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

阿蘇山〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

中岳第一火口では、2月4日にごく小規模な噴火が発生し、火口から南西約800m付近で微量の火山灰が確認されました。また、火口内では時々微量の火山灰の噴出を確認しています。火口カメラでは、夜間に南側火口壁噴気孔からの火炎現象が時々確認され、夜間の現地調査でも観測されています。

その他の火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内では火山灰や火山ガスの噴出が見られることから、火口内及びその周辺では火山灰の噴出等に警戒が必要です。火口付近では引き続き火山ガスに対する注意が必要です。

雲仙岳〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

霧島山（新燃岳）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

火口内及び火口の外の西側斜面では引き続き噴気がみられており、火口内に影響する程度の噴出現象が発生する可能性がありますので、火山灰の噴出等に警戒が必要です。

霧島山（御鉢）〔噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）〕

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕←2月2日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ、2月19日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引き下げ、3月2日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げ

桜島の昭和火口では、2月1日から2日08時まで爆発的噴火が8回発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が5合目（昭和火口より500mから800m）まで達しました。このため、桜島の噴火活動は活発化する傾向にあると判断し、2日09時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

爆発的噴火は5日00時35分まで断続的に発生しましたが、その後、火口から2km程度の範囲に影響を及ぼす噴火の可能性が低くなったため、19日15時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを3から2に引き下げました。

3月1日から2日にかけて、爆発的噴火が3回発生し、2日06時53分には弾道を描いて飛散する大きな噴石が昭和火口より4合目（火口から800mから1300m）まで達しました。また、大隅河川国道事務所が有村に設置している傾斜計の観測では、山体の膨張と考えられる変化が認められました。このため、桜島の噴火活動は活発化する傾向にあると判断し、3月2日10時30分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引き上げました。

火山性地震及び火山性微動は少ない状態が続いており、山体の膨張を示す地殻変動も観測されていません。

南岳山頂火口及び昭和火口から2km程度の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石と火砕流に警戒が必要です。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）、降雨時には土石流等に注意が必要です。

なお、昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられます。今後の火山活動の推移に注意する必要があります。

薩摩硫黄島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

噴煙活動はやや活発で、火山性地震回数はやや多い状態が続いています。

今後、硫黄岳火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 k m の範囲では噴火に対する警戒が必要です。

口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）〕

GPS による地殻変動観測では、2008 年 9 月から続いている新岳火口浅部の膨張を示す変化は、やや鈍化していますが、現在も継続しています。

また、同時期から噴気や火山ガスの放出量が増加するなど、火山活動が高まった状態が続いています。

口永良部島では火口から概ね 2 k m の範囲に影響を及ぼす噴火の発生が予想されますので、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

諏訪之瀬島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕

爆発的噴火は 9 回発生したほか、小規模な噴火も時々発生しました。諏訪之瀬島ではこれまでも長期にわたり噴火を繰り返しています。

今後、御岳^{みたま}火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね 1 k m の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

上記以外の火山の活動状況に変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められず、予報警報事項に変更はありません。

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火予報(噴火警戒レベル 1、平常)を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

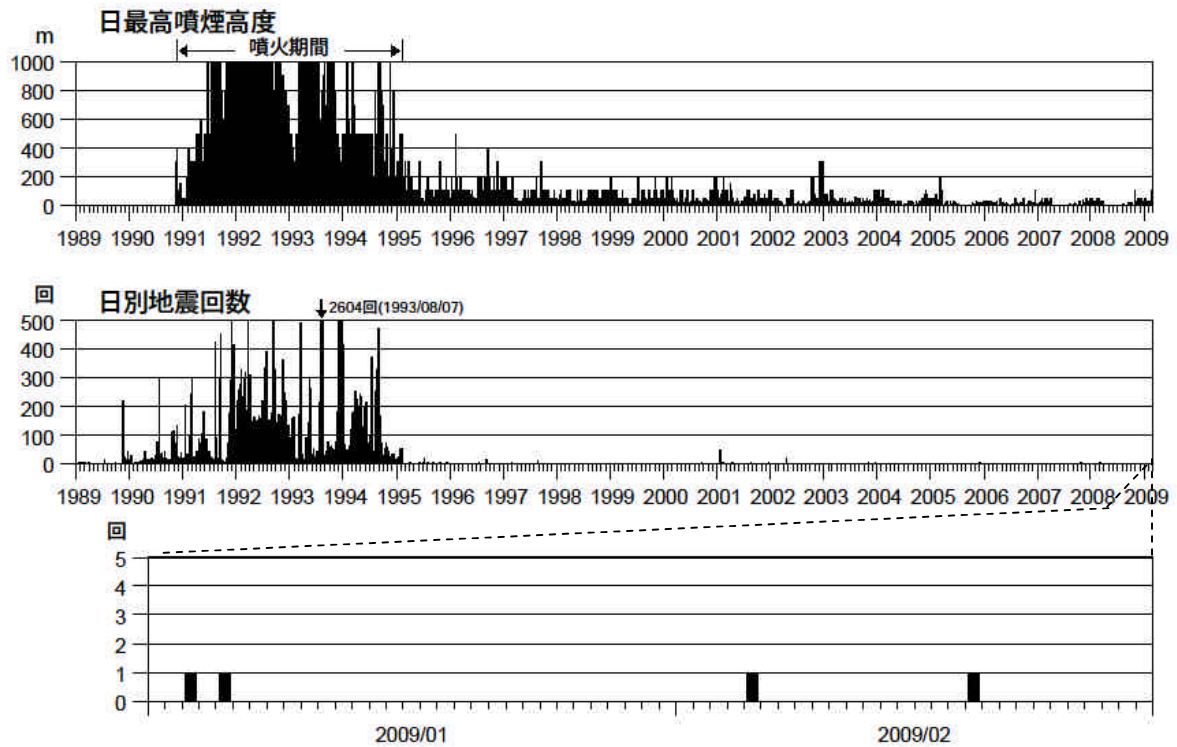


図2 雲仙岳 火山活動経過図（1989 年 1 月～2009 年 2 月）

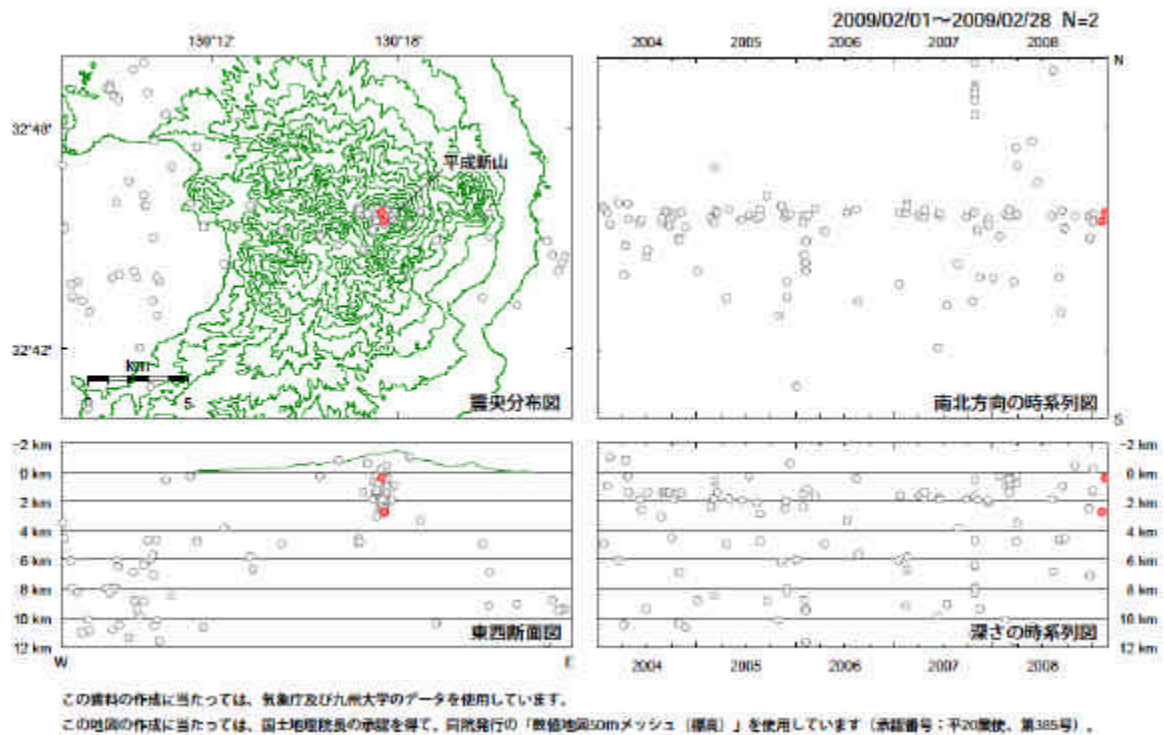


図3 雲仙岳 震源分布図（2004 年 1 月～2009 年 2 月）

震源は、これまでも発生している平成新山直下に分布しました。

雲仙岳

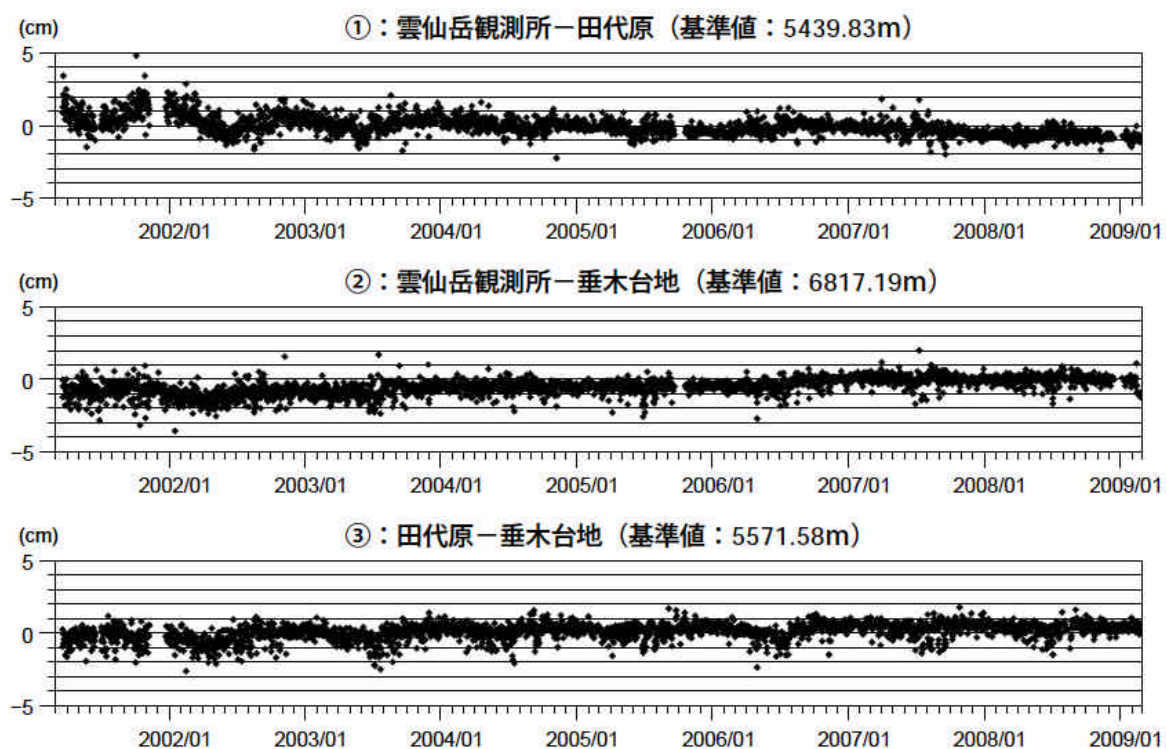


図 4 雲仙岳 GPS 連続観測による基線長変化(2001 年 3 月 20 日～2009 年 2 月 28 日)

火山活動に起因するとみられる変化は認められませんでした。

この基線は図 1 の ～ に対応しています。